



**TAMRON®**

産業の眼を創造貢献するタムロン

**第63期 中間報告書**

2009年1月1日～2009年6月30日

株主の皆様へ 1・2

セグメント別事業の概況 3・4

上半期トピックス一覧 5・6

フォーカス！ 7・8

最新情報 9

CSR活動報告 10

連結財務諸表 11・12

会社概要 13・14

第2回タムロン鉄道風景コンテスト 裏表紙



代表取締役社長 小野 守男

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ここに、当社第63期上半期(2009年1月1日から2009年6月30日)の営業概況についてご報告申し上げます。

当上半期における世界経済は、金融危機の影響が実体経済に波及し、景気悪化が鮮明となりました。米国経済は設備投資や住宅投資の大幅な減少が見られ、個人消費も低迷する等総じて悪化が続きました。欧州経済も生産や輸出が減少し、雇用情勢の悪化から個人消費が低迷しました。中国経済は公共投資を中心とした大規模な景気刺激策の効果もあり、景気持ち直しの動きが見られました。

国内経済は、世界的な景気悪化の影響により、大規模な生産調整や企業収益の悪化を背景に、雇用情勢が一段と厳しくなり、個人消費が落ち込むなど景気は後退し、非常に厳しい経営環境となりました。

当社グループの当上半期における経営成績は、厳しい環境にも関わらず主力事業であります写真関連事業の自社ブランド製品は増収となりましたが、コンパクトデジタルカメラ市場低迷の影響や前年同期に比べ為替レートが円高で推移したこと等により、売上高は216億53百万円(前年同期比28.6%減)、営業損失29百万円(前年同期は営業利益34億24百万円)、経常損失40百万円(前年同期は経常利益34億70百万円)となりました。また、厚生年金基金脱退に伴う追加損失11億30百万円の特別損失計上等により、四半期純損失は6億77百万円(前年同期は四半期純利益22億80百万円)となりました。

通期見通しについて

下半期の景気動向につきましては、一部では在庫調整の一巡等により生産に回復の動きが見られますが、雇用・所得環境の悪化を背景とした個人消費の低迷が懸念される等、景気低迷の長期化が予想されます。

通期の業績見通しにつきましては、このような厳しい経営環境が当面続くものと予想されることから、通期業績予想を修正し、売上高510億円(前期比18.4%減)、営業利益25億円(前期比59.7%減)、経常利益25億円(前期比57.2%減)、当期純利益11億円(前期比63.7%減)を見込んでおります。

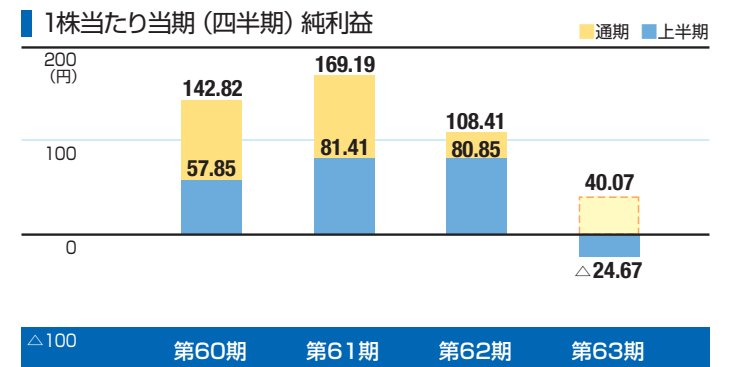
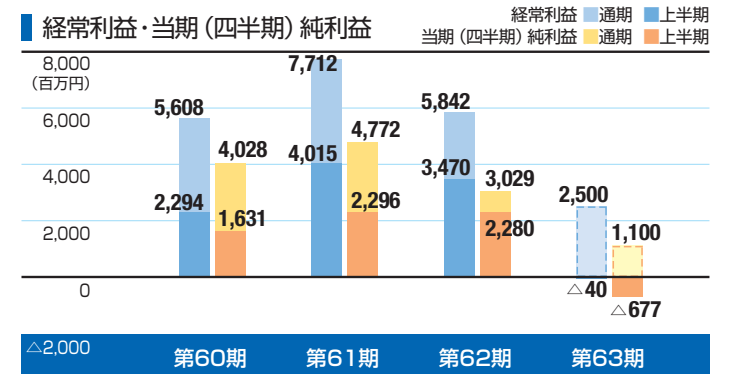
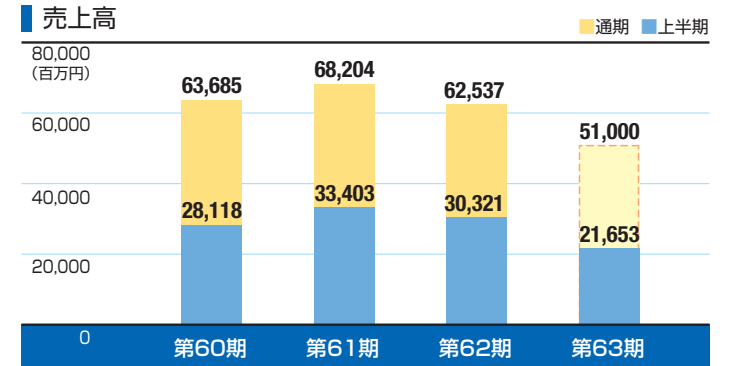
※本見通しにおいては、為替レート1米ドル=95円、1ユーロ=130円を前提としております。

配当金について

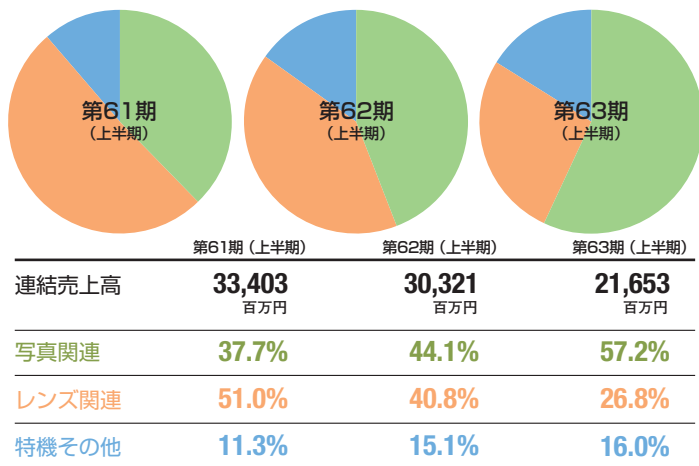
中間配当金につきましては、当上半期業績や財務状況等を総合的に勘案し、1株につき15円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、これからも引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

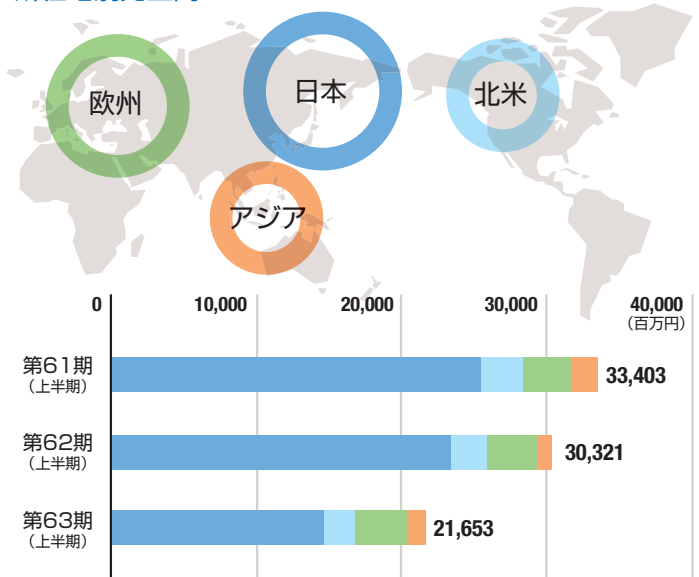
2009年9月



## 連結売上高構成比較



## 所在地別売上高

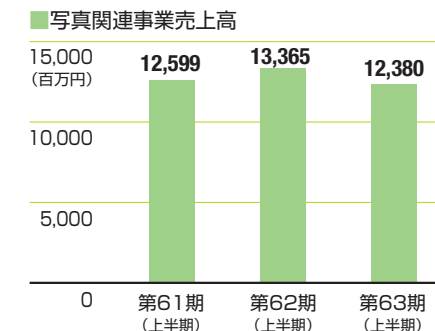


## 写真関連



デジタル一眼レフカメラ用交換レンズ

写真関連事業は、昨年発売いたしました世界最高倍率15倍を誇る超高倍率ズームのAF18-270mm F/3.5-6.3 Di II VC (Model B003) や超広角ズームレンズSP AF10-24mm F/3.5-4.5 Di II (Model B001) 等の売上が順調に伸びたことで、自社ブランド製品は増収となりましたが、顧客メーカーの生産・在庫調整の影響を受けたことにより、OEM関連が減収となりました。このような結果、売上高は123億80百万円（前年同期比7.4%減）となり、営業利益は9億50百万円（前年同期比54.2%減）となりました。

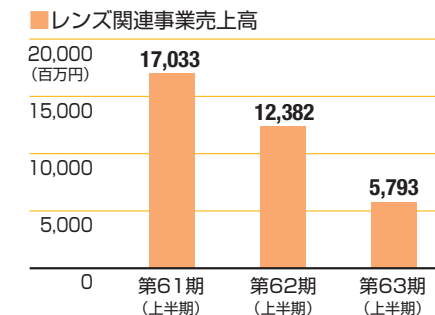


## レンズ関連



デジタルカメラ用レンズ・ビデオカメラ用レンズ

レンズ関連事業は、当社が得意とする中高級機種を中心に急激な市場の悪化が見られ、顧客メーカーの生産・在庫調整や販売価格下落の影響により、デジタルカメラ用レンズユニットが大幅な減収となりました。このような結果、売上高は57億93百万円（前年同期比53.2%減）となり、営業損失は2億93百万円（前年同期は営業利益16億92百万円）となりました。

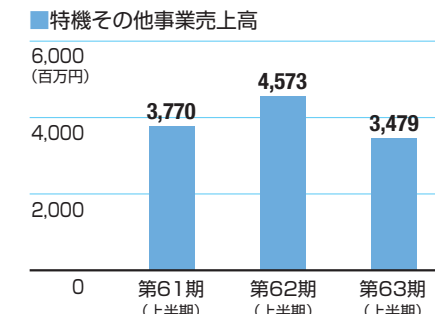


## 特機その他



監視カメラ用レンズ

特機その他事業は、CCTVカメラ用レンズユニットにおいて“画面全域でメガピクセルの性能を実現”する監視カメラ用レンズ製品群「Flat Field Mega Pixel Lens (フラットフィールドメガピクセルレンズ)」シリーズを展開いたしました。世界的な景気後退を受けた設備投資の落ち込み等の影響により、減収となりました。このような結果、売上高は34億79百万円（前年同期比23.9%減）となり、営業利益は2億49百万円（前年同期比63.1%減）となりました。





**製品** CCTV

- 一体型監視カメラ用 光学式防振機構搭載 超高倍率55倍ズームレンズ (Model DF012) 開発発表
- "画面全域でメガピクセルの性能を実現"する監視カメラ用レンズ製品群「Flat Field Mega Pixel Lens」シリーズを展開



**展示会・イベント**

- 「PMA 2009」出展(アメリカ) (3/3~3/5)
- 「セキュリティショー2009」出展(3/3~3/6)
- 「PIE2009」出展(3/26~3/29)

**その他**

- 「第6回タムロンマクロレンズフォトコンテスト」実施 (応募期間:3/26~10/31)



「PMA 2009」



「セキュリティショー2009」



「PIE2009」

**展示会・イベント**

- 「China P&E2009」出展(中国) (5/7~5/10)
- 「IFSEC 2009」出展(イギリス) (5/11~5/14)

**その他**

- CSR活動「出前授業」実施

2009 **1** January

**2** February

**3** March

**4** April

**5** May

**6** June

**展示会・イベント**

- 「Photofair 2009」出展(インド) (1/8~1/11)



**製品** 一眼レフ

- SP AF10-24mm F/3.5-4.5 Di II (Model B001・キヤノン用) 発売
- SP AF60mm F/2 Di II MACRO 1:1 (Model G005・キヤノン用・ニコン用・ソニー用) 開発発表

**展示会・イベント**

- 「ISC West 2009」出展(アメリカ) (4/1~4/3)
- 「SecuTech Expo 2009」出展(台湾) (4/22~4/24)

**その他**

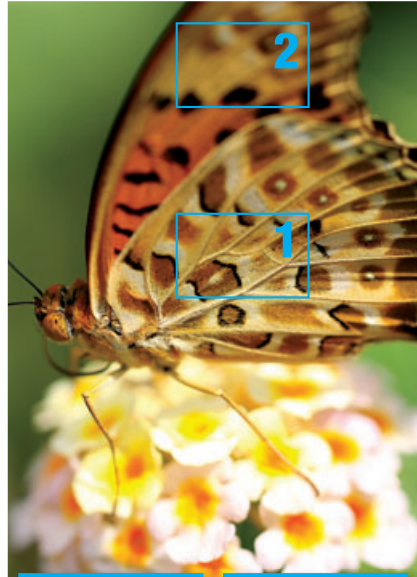
- 「第2回タムロン鉄道風景コンテスト」実施 (応募期間:5/1~8/15)

**製品** 一眼レフ

- SP AF10-24mm F/3.5-4.5 Di II (Model B001・ソニー用) 発売
- SP AF10-24mm F/3.5-4.5 Di II (Model B001・ペンタックス用) 発売
- SP AF60mm F/2 Di II MACRO 1:1 (Model G005・キヤノン用) 発売

製品情報

『SP AF 60mm F/2 DiII MACRO 1:1 (Model G005)』新発売



シャープな画質

柔らかなボケ味

世界初\*、開放F値2を実現！  
豊かな光量を活かした  
斬新なマクロ表現が可能

\*2009年6月1日現在、APS-Cサイズ相当のデジタル一眼レフカメラ用マクロレンズにおいて、当社調べ

- 大口径
- 開放F値2
- 等倍マクロレンズ



〔キヤノン用：2009年6月25日〕  
〔ニコン用：2009年8月20日〕

開放F値2という圧倒的な明るさを実現しながらも、大口径による収差変動の増大を極力抑えた高画質マクロレンズです。徹底した性能重視設計により、各レンズ群の複雑な動きを高度にコントロールし、大口径化による収差変動の増大を極力抑え、無限遠から最至近まで、画面のすみずみまで均一で高性能な画質を実現いたしました。また、開放F値2での撮影では、F2.8に比較してさらに被写界深度が浅く、やわらかで大きなボケ味が得られますので、マクロ撮影の表現を大きく広げることができます。定評あるタムロンのマクロレンズ設計ノウハウを結集して開発された、シャープな描写とアウトフォーカス部のボケ味が絶妙のバランスを奏でる大変魅力的なレンズです。

開放F値2ならではの大きく柔らかなボケ味

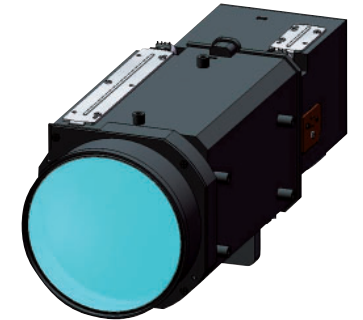
背景を大胆にボカして被写体を浮かび上がらせる、この大口径レンズ特有の写真表現を活用することによって、F値が暗いレンズでは難しかった、立体感を演出した写真を撮ることができます。

製品情報

『一体型監視カメラ用 光学式防振機構搭載  
超高倍率55倍ズームレンズ』開発発表

55倍という超高倍率を実現！  
小型化された監視カメラ用ズームレンズ

55倍という高倍率化を実現しながら圧倒的な小型化を達成し、さらに今までにない光学防振機構を搭載しレンズ内でブレを低減する機構を組み込みました。これにより設置場所の自由度を広げ、工事費の削減を実現し超高倍率ズームレンズによる高度な監視システムを一般化することが可能になりました。



超高倍率ズームレンズの課題を克服

従来のマーケット

(年間数千台のマーケット)

国境監視、湾岸監視、  
空港等の広域監視等の特殊な用途

- 小型化  
大きさ：従来の約4分の1
- 低価格化  
価格：従来の約3分の1
- 設置工事の低コスト化

新たなマーケットを創造

(一般商業施設にも設置可能)

スポーツスタジアム、アミューズメント施設、  
高速道路監視等

ワイド端 焦点距離:6mm  
35mm判フィルム換算:43mm

45.5°

テレ端 焦点距離:330mm  
35mm判フィルム換算:2,380mm

0.83°

EISA  
アワード  
4年連続  
受賞!!

## AF18-270mm F/3.5-6.3 DiII VC (Model B003)

EISAアワード

# 『ヨーロッパ・トラベル・レンズ・オブ・ザ・イヤー 2009-2010』を獲得



今回受賞した2008年9月発売のこのズームレンズは、デジタル一眼レフカメラ用レンズとしては世界初・世界最大のズーム倍率※1「15倍」を実現し、35mm判換算※2で広角28mm～超望遠419mm相当の世界を、一本だけで撮影可能とした画期的な製品です。しかも、タムロン独自開発の手ブレ補正機構「VC」を搭載したことで、「手ブレ」を効果的に補正。「軽量・コンパクト」なボディに、世界最大ズーム倍率「15倍」のポテンシャルを最大限に活かす超高倍率ズームレンズの最新鋭モデルに相応しい機能と性能を備えたズームレンズです。

主な受賞の理由は2つあります。倍率15倍というAPS-Cフォーマットレンズをもって、デジタル一眼レフ用交換レンズとして最大のズーム域をカバーできること。そして当社独自技術の手ブレ補正機構が通常よりも4段階遅いシャッタースピードでの手持ち撮影を可能としたことです。

※1 世界初・世界最大のズーム倍率=デジタル一眼レフカメラ(APS-Cサイズ相当)専用レンズにおいて。2008年8月現在当社調べによります。

※2 当社換算値=1.55倍

### 『EISAアワード』賞とは

欧州の主要20ヶ国、約50の著名な写真・映像・音響・モバイルエレクトロニクス関係専門誌の編集長と技術主幹で構成されるEISA (EUROPEAN IMAGING AND SOUND ASSOCIATION) が、年間で最優秀と認める写真、オーディオ、ビデオの分野別製品に対して授ける賞です。当社は今回で4年連続の受賞となりました。

- 1 **2006-2007** 『SP AF 17-50mm F/2.8 XR Di II (Model A16)』
- 2 **2007-2008** 『AF18-250mm F/3.5-6.3 Di II (Model A18)』
- 3 **2008-2009** 『AF28-300mm F/3.5-6.3 XR Di VC (Model A20)』
- 4 **2009-2010** 『AF18-270mm F/3.5-6.3 Di II VC (Model B003)』

## 出前授業の開催

タムロンでは、CSR活動として当社の社員が近隣の小学校等を訪れて、子供たちが普段学校では教わる機会のないテーマについて授業を行う「出前授業」を行っています。2008年よりスタートした出前授業は、参加した子供たちからは「いろんな体験ができて楽しかった」などの感想が寄せられ、学校側からも「ぜひ来年も実施してほしい」というご要望をいただくなど非常に好評で、2009年も引き続き開催しています。これまでの授業のテーマは様々で、シャボン玉の成分を変

えて巨大シャボン玉を作ったり、3R(リサイクル<Recycle>・リユース<Reuse>・リデュース<Reduce>)や地球温暖化などの環境をテーマとしたクイズを交えながら楽しく学んだり、当社の環境への取り組み(ゴミの分別、ペットボトル・プルトップの回収)も紹介しています。

今後は、写真撮影講座や望遠鏡制作講座などの、よりタムロンの本業に近い授業のテーマを増やし、当社だからこそできる出前授業を開催していきたいと考えています。



■連結貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

区分	当第2四半期 2009年6月30日 現在	前期 2008年12月31日 現在
<b>〔資産の部〕</b>		
1 流動資産	27,175,918	30,063,549
2 固定資産	19,281,238	19,112,922
<b>資産合計</b>	<b>46,457,156</b>	<b>49,176,471</b>
<b>〔負債の部〕</b>		
3 流動負債	11,058,997	13,369,164
4 固定負債	2,987,640	2,680,395
<b>負債合計</b>	<b>14,046,638</b>	<b>16,049,560</b>
<b>〔純資産の部〕</b>		
株主資本	33,268,920	34,632,377
評価・換算差額等	△ 858,401	△ 1,505,465
5 純資産合計	32,410,518	33,126,911
<b>負債純資産合計</b>	<b>46,457,156</b>	<b>49,176,471</b>

point ➊

売上高の減少により受取手形及び売掛金が19億98百万円減少したことや、現金及び預金が4億9百万円減少したこと等により、前期末に比べて28億87百万円減少しました。

point ➋

有形固定資産が2億24百万円減少しましたが、投資その他の資産が6億44百万円増加したこと等により、前期末に比べて1億68百万円増加しました。

point ➌

厚生年金基金脱退損失引当金が11億49百万円減少したことや未払法人税等が5億60百万円減少したこと等により、前期末に比べて23億10百万円減少しました。

point ➍

長期借入金が増加したこと等により、前期末に比べて3億7百万円増加しました。

point ➎

利益剰余金が減少したこと等により、前期末に比べて7億16百万円減少しました。自己資本比率は、前期末に比べて2.4ポイント増加し、69.8%となりました。

■連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

（ご参考）

区分	当第2四半期 自2009年1月1日 至2009年6月30日	前第2四半期 自2008年1月1日 至2008年6月30日
売上高	21,653,599	30,321,830
売上原価	15,887,156	20,841,955
売上総利益	5,766,443	9,479,875
販売費及び一般管理費	5,795,844	6,055,087
<b>営業利益（△損失）</b>	<b>△ 29,401</b>	<b>3,424,788</b>
営業外収益	117,334	258,289
営業外費用	128,390	212,111
<b>経常利益（△損失）</b>	<b>△ 40,457</b>	<b>3,470,965</b>
特別利益	5,997	12,303
特別損失	1,130,776	—
<b>税金等調整前 四半期純利益（△損失）</b>	<b>△ 1,165,236</b>	<b>3,483,269</b>
法人税等	△ 488,116	1,202,617
<b>四半期純利益（△損失）</b>	<b>△ 677,120</b>	<b>2,280,651</b>

■連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：千円）

（ご参考）

区分	当第2四半期 自2009年1月1日 至2009年6月30日	前第2四半期 自2008年1月1日 至2008年6月30日
6 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,117,359	3,423,743
7 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,130,018	△ 3,060,825
8 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 598,843	△ 1,507,371
現金及び現金同等物に係る換算差額	202,399	△ 217,311
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 409,103	△ 1,361,764
現金及び現金同等物の期首残高	10,752,065	13,520,940
9 現金及び現金同等物の四半期末残高	10,342,961	12,159,176

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しているため、前第2四半期の金額は参考として記載しております。

point ➉

減価償却費が18億71百万円、売上債権の減少額が20億81百万円となった一方、税金等調整前四半期純損失が11億65百万円、厚生年金基金脱退損失引当金の減少額が11億49百万円となったこと等によるものであります。

point ➊

有形固定資産の取得による支出が10億35百万円となったこと等によるものであります。

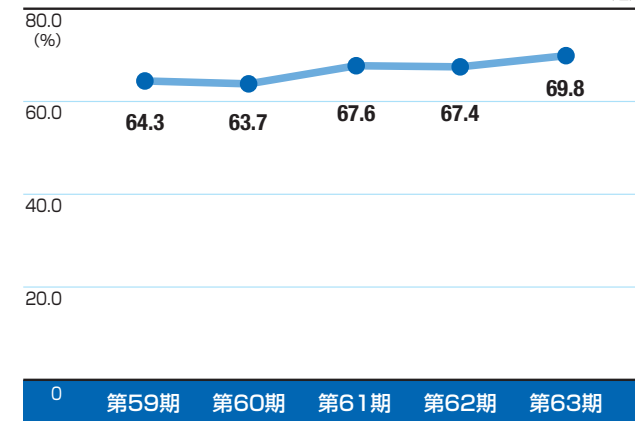
point ➋

長期借入金による収入が10億円あった一方、短期借入金の純減額が1億91百万円、長期借入金返済による支出が7億18百万円、配当金の支払額が6億87百万円となったこと等によるものであります。

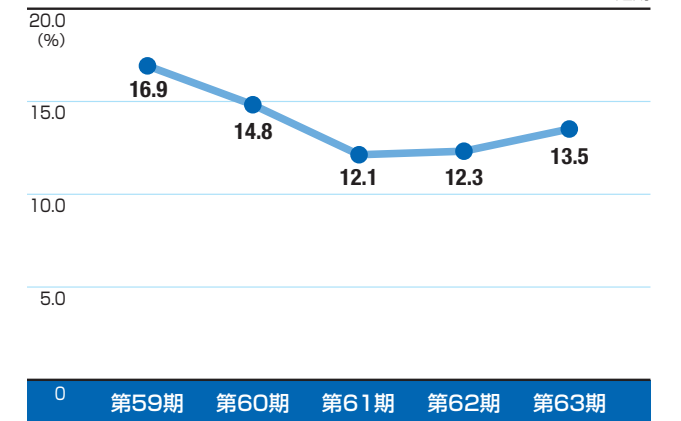
point ➌

前期末に比べて4億9百万円減少しました。

■自己資本比率の推移



■借入金依存度の推移




※第63期は6月30日現在で算出

会社概要		2009年6月30日現在
商号	株式会社タムロン	
創業	1950年11月1日	
設立	1952年10月27日	
本社	埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地	
資本金	69億23百万円	
従業員数	5,252名(連結)	

役員		2009年6月30日現在
代表取締役社長	小野 守男	
取締役副社長	河野 昭二	
取締役副社長	太田 均	
専務取締役	白井 義博	
専務取締役	長島 久明	
常務取締役	川合 喬	
取締役	関 廣司	
取締役	新井 宏明	
取締役	志村 忠寛	
常勤監査役	大川 清司	
常勤監査役	益子 幸雄*	
監査役	富吉 紀夫*	
監査役	西本 恭彦*	

\*社外監査役



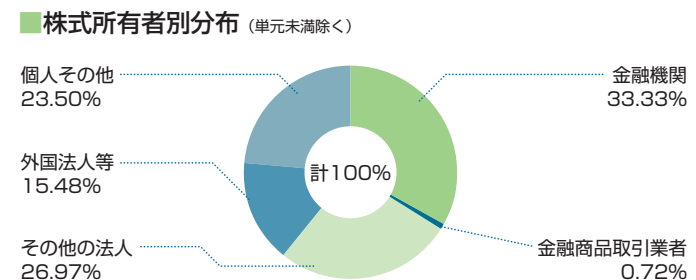
**品質マネジメントシステム企業登録 ISO 9001 取得**  
タムロンは、国際的な品質マネジメントシステムの規格、ISO9001に適合認定されています。

**環境マネジメントシステム企業登録 ISO 14001 取得**  
タムロンは、地球環境対策にも積極的に取り組んでいます。

株式の状況		2009年6月30日現在
発行可能株式総数	80,000,000株	
発行済株式の総数	28,235,000株	
単元株式数	100株	
株主数	8,416名	※単元未満除く

大株主(上位10名)			2009年6月30日現在
株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)	
株式会社ニューウェル	4,898	17.34	
ソニー株式会社	3,129	11.08	
株式会社宏友興産	1,529	5.41	
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー(常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行)	1,354	4.79	
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,146	4.05	
株式会社埼玉りそな銀行	1,122	3.97	
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	1,096	3.88	
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン(常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行)	1,084	3.84	
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	581	2.05	
タムロン協会持株会	458	1.62	

注)1. ソニー株式会社の持株数3,129千株は、みずほ信託銀行株式会社へ委託した信託財産であります。信託約款上、議決権の行使並びに処分権については、ソニー株式会社が指図権を留保しております。  
2. 上記の他に、当社が所有している自己株式784千株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合2.77%)があります。



株主メモ	
事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会 毎年12月31日
	期末配当 毎年12月31日
	中間配当 毎年6月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先(電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル) ※取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店並びに日本証券代行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告 ※ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 当社ホームページ <a href="http://www.tamron.co.jp">http://www.tamron.co.jp</a>

**お知らせ**

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払について  
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

**ホームページのご紹介**

当社ホームページでは、事業内容をはじめ、商品のご紹介からIR情報に至るまでの様々な情報を掲載しています。ぜひご利用ください。

**主な掲載コンテンツ**

- 企業情報
- 採用情報
- 製品情報
- IR情報
- お問い合わせ
- CSRへの取り組み

タムロン・フォトサイト  
写真の様々な楽しみをご紹介します。ぜひご覧ください。

タムロン・プロニカクラブ  
はこちらから

**株主の皆様のお声を聞かせください**

インターネットでアンケート!!

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード **7740**

いいかぶ

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信  
kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を呈呈させていただきます

●アンケートのお問い合わせ [e-株主リサーチ事務局]  
TEL: 03-5777-3900 (平日10:00~17:30)  
MAIL: info@e-kabunushi.com

※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアの詳細<http://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

タムロン トップページ

投資家の皆様へ  
財務情報や、IR関連ニュースはこちらをご覧ください。

CSRへの取り組み  
P.10で紹介しております。社会・環境への取り組みについて詳しくはこちらをご覧ください。



## 第2回タムロン鉄道風景コンテスト

鉄道のまち大宮(さいたま市)に本社を置く企業として、さいたま市、さいたま商工会議所のご後援をいただき、地域の活性化と鉄道文化の振興に貢献することを目的として「タムロン鉄道風景コンテスト」を今年も開催いたしました。このコンテストは鉄道の風景写真を通して、全国の鉄道ファンのみならず、一般の方々にも写真の楽しさを広く知っていただきたく、「一般の部」の他に「小・中・高校生の部」を設けておりますので、ご家族でのご参加なども可能です。



第1回大賞受賞作品  
(一般の部:さいたま市長賞)  
伊東 政男 様 作品「往く人来る人」



第1回大賞受賞作品  
(小・中・高校生の部:さいたま商工会議所会頭賞)  
宮本 春奈 様 作品「来年の夏も会おうね。」

### コンテスト概要

#### 応募規定

鉄道風景写真、鉄道のあるスナップ写真など、鉄道とその周辺を入れ込んだ写真

#### 応募期間

2009年5月1日(金)~8月15日(土)

応募期間は終了しました。

沢山のご応募ありがとうございました。

#### 結果発表

2009年9月下旬

## 入賞作品写真展のお知らせ

第2回タムロン鉄道風景コンテスト「私の好きな鉄道風景ベストショット」入賞作品写真展をそごう大宮店にて開催することに決定いたしました。皆様にご応募いただいた力作をぜひご覧ください。

### 入賞作品写真展

**会期** 2009年10月14日(水)~10月26日(月)[13日間] 午前10時00分~午後8時00分

**会場** そごう大宮店 3階特設会場(埼玉県さいたま市)

**入場料** 無料

**後援** さいたま市 さいたま商工会議所 **協力** そごう大宮店 レイルマガジン

**主催・お問い合わせ** 株式会社タムロン 鉄道風景コンテスト事務局

電話:03-3251-3860 FAX:03-3251-3863

## 株式会社タムロン

〒337-8556

埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地

TEL 048-684-9111 (代)

FAX 048-683-8289

<http://www.tamron.co.jp>

■ IR情報関連に関するお問い合わせ  
経営企画室

TEL 048-684-9114 (午前9:00~午後5:20)

FAX 048-683-8282

e-mail : [kabushiki@tamron.co.jp](mailto:kabushiki@tamron.co.jp)



ミックス品

FSC認証林及び管理された  
資源からの製品グループです  
[www.fsc.org](http://www.fsc.org) Cert no. SGS-COC-2499  
© 1996 Forest Stewardship Council